

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600226		
法人名	社会福祉法人 歌垣福社会		
事業所名	グループホームうたがきの里		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字築切264番地1		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年2月20日	外部評価確定日	平成26年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周りを田園に囲まれ、四季の移り変わりを肌で感じられる自然豊かな環境のもと穏やかな1日を過ごされ、家庭的な雰囲気を大切に日々の生活に役割を持ち、一人ひとりのペースに合わせた支援を行い、レクリエーションやリハビリ、外出支援等により職員との語らいを多く持ち笑顔あふれる施設づくりに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>長崎街道の近くに位置して交通の便は良く、広い空と田園風景が広がる静かな環境に建つホームである。ホームに面して小学校と幼稚園があり、日常的に子供たちの賑やかで可愛い声が聞こえ、登下校の元気な姿に接することができる。ホーム横の道は保育園児の散歩コースで、散歩時は園児たちと入居者が互いに手を振り声掛けするなどの交流がなされており、入居者の楽しみともなっている。協力医療機関である病院と隣接しており、体調が変化してもすぐ対応して頂けるので家族の安心につながっている。敷地内に隣接して建つ通所介護事業所とは、デイ送迎時に手を振ったり挨拶をするなど、利用者と入居者の交流がなされている。また、ボランティアの両事業所相互訪問もある。ホームの敷地周りには梅・桃・桜・椿の花木や南天・つつじ等季節の草花が植えられ入居者の目を楽ませている。ホーム内からは花木のほか、田植えや稲刈りなどの農作業を見ることができ、ホームに居ながら四季を感じることができる。「心に寄り添いましょう・優しい言葉かけ」を基本理念とし、各ユニット毎に「出会い・ふれあい・語り合い」と「敬愛・信愛・友愛」と言う理念を作っており、家庭的な雰囲気を大切にした支援を心がけている。職員は穏やかで優しく、家庭的な介護とは何かを日々考えながら支援にあたっているホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念とそれを具体的に実践しやすい様に、各棟で掲げた理念両方を朝礼時に唱和し実践に繋げている。	基本理念とそれを具体的に実践しやすい様に、各棟で掲げた理念両方を朝礼時に唱和し実践に繋げている。	「心に寄り添いましょう・優しい言葉かけ」を基本理念とし、「出会い・ふれあい・語り合い」「敬愛・信愛・友愛」という笑顔を大切にしたいユニット理念を作っている。毎朝理念を唱和し、理念に沿ったケアの確認を行い、家庭的な雰囲気をも大切にしたい支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の環境整備活動への参加や地元消防団との合同避難訓練を実施している。地域の運動会を見学したり参加している。	自治会に入り回覧板を配ってもらっている。また、クリーンデーの参加、防災訓練時には消防団・地元住民の協力を得て実施している。	自治会に入会し、地域の清掃活動に参加している。小学生や保育園児とは散歩や登下校を通して積極的にあいさつする関係である。地元消防団員とは消防避難訓練や日常生活を通して協力関係が築かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元消防団との避難訓練時に実践を踏まえ認知症の理解を深めてもらっている。	地元消防団との避難訓練時に実践を踏まえ認知症の理解を深めてもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で報告する事で、自分達の支援の仕方を再検討したり、会話の中でヒントを得たりしている。	会議で報告する事で、自分達の支援の仕方を再検討したり、会話の中でヒントを得たりしている。	運営推進会議は家族や地域住民、行政職員などの参加で開催されている。ホームの現状説明や行事報告、意見交換がなされている。現在はホームを知ってもらう事に重点を置いた内容であるが、より活発な意見交換ができる会議となるように内容を検討中である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会への出席をお願いし、日頃の様子も理解していただき、また、公の制度の講習等もお願いする様に検討している。	運営推進委員会への出席をお願いし、日頃の様子も理解していただき、また、公の制度の講習等もお願いする様に検討している。	行政担当者が運営推進会議のメンバーでもある事から連絡を取り合う関係を築いている。問題点や分からない事があればすぐに相談ができ、助言を頂ける関係ができている。今後、成年後見制度や安心サポートなどの講習にも結び付けたいと考えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回の身体拘束委員会を通じ職員で話し合い、声掛け、見守りやセンサーマットなど環境整備を行い安全を確保し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	センサーマット利用と見守りで身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束委員会があり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は身体拘束に関する研修を受け、精神的・言葉による苦痛のない支援を心がけている。玄関や居室は施錠しておらず入居者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のサービス提供の中、意識を持ったケアを行い月一回の虐待防止委員会を通じ注意を促し虐待防止に努めている。	2014/4/25			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修科の参加により制度の理解に努め、必要がある場合は話し合い活用できるようにしたい。	以前、権利擁護に関する制度を学ぶ機会があったが支援までは至っていない。再度、研修の機会を持った方がよい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、契約書に基づき締結・解約の説明は行うが、解約の時期が来れば再度家族と話し合いを持ち了承を得てから行う。	入所の際、契約書に基づき締結・解約の説明は行うが、解約の時期が来れば再度家族と話し合いを持ち了承を得てから行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが意見や要望の記載はなく、家族の面会時や利用者との会話の中で要望等があれば反映させている。また介護相談員の意見も真摯に受け止めサービスの向上に努めている。	介護相談員さんの訪問があり、話を聞いてもらったり、改めて意見や希望を聞くのではなく、日常会話の中で表現できる様、持っていくように努めている。	職員は家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。面会の少ない家族には電話で意見や要望を聞いている。寄せられた意見や要望は検討し、食事のメニュー変更など、運営に活かせるように検討がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議を開き職員の意見や提案を聞き反映させている。	職員会議の時はもちろん、普段から意見や提案を聞くよう努め反映させている。	職員会議やミーティング・日常の業務を通して、管理者は職員と話し、意見や要望を聞くように心がけている。気付いた事は連絡帳やホワイトボードに書き、職員全員が周知できるように努めている。出された意見や要望は、運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心を高めるためチャレンジシートの作成・評価を行い、職員の意見を参考に職場環境を整えるなど働きやすい職場作りに努めている。	職員の向上心を高めるためチャレンジシートの作成・評価を行い、職員の意見を参考に職場環境を整えるなど働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内研修会及び外部研修会に積極的に参加し職員の資質向上に努めている。	グループ内研修会及び外部研修会に積極的に参加し職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内グループホームの交流会や医療福祉のネットワーク会議に参加しサービスの質の向上に努めている。	町内グループホームの交流会や医療福祉のネットワーク会議に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前に本人との面会を行い、アセスメントを取るなかで職員顔を覚えてもらうことで安心感を持っていただき、入所後はこまめに声掛け見守りを行い話を聞くよう努めている。	コミュニケーションを多くとる事により、また基本情報等も参考に本人の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込みの際、施設の見学してもらいグループホームの雰囲気を感じてもらい、入所前に不安や要望を聞いている。	家族の話をよく聞く、相談に乗る等、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人を訪問し、家族・担当ケアマネ・利用された事業所より状態を聞きサービスに反映している。	入所前に本人を訪問し、家族・担当ケアマネ・利用された事業所より状態を聞きサービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でできる役割を持ち、共に行うことで互いに支え合い、レクリエーションや食事により共に過ごすことの楽しさを感じてもらえるように支援を行っている。	生活の場で出来る事、洗濯物量みや掃除、食事の準備を職員と一緒にしたり、畑の野菜作りや漬物作りの知恵をもらったりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話により家族に利用者の状況を報告し、家族と共に利用者支援できるように努めている。	面会、受診、仏様参り、美容室行き等、家族様の協力をいただき体調変化などの連絡は密にとり共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外泊・外出・は自由にしていただき、隣接のデイサービスとの交流・病院受診の際、顔見知りの方と話ができるよう支援を行っている。	盆、正月の外泊も難しくなっているので、親戚・家族が集まる時の自宅への外出だけでも受け入れてもらえるようお願いしたり、また、デイや病院受診時の知人との交流も支援している。	知人や友人の面会時はお茶の接待をし、居室でゆっくり過ごせる雰囲気づくりに努めている。家族の協力も得て、馴染みの理美容室利用や帰宅・外泊など、入居者から要望があればできる限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が席の配置を考え、利用者同士の間に入り話を聞くなどして利用者同士がスムーズな話しができるよう支援を行っている。	気の合う利用者同士の関わりを支援、また、認知症の進行で人と合わせられない方には、職員が間をとりもつ事で、孤立を防ぐ工夫をしているが難しい。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切に、お会いした際は本人や家族の近況を聞き必要な場合は助言等を行っている。	会った時に挨拶を交わす程度、支援までには及んでいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや希望などに耳を傾け反映しようとしているが、中には困難な事例もあり、どう対応していいか判断に困ることがある。	本人の思いを一番に考え対応しているが、体調コントロールもあり、食事量とか希望に添えない事もある。	職員は入居者と話す事を心がけており、日々のケアの中から意向を汲み取るように努めている。希望や意向を表すことが困難な入居者には普段の様子から察し、顔色や表情・しぐさから思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャー等から得られた情報提供やレクリエーション時の回想法などで本人から話を聞き、これまでの生活状況を把握している。	生活歴や情報提供を活用して、これまでの生活の仕方の把握に努め、それに近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態観察や本人の意見・日誌・健康管理表などを見て現状把握に努めている。	日々の介護記録に目を通し、利用者の心身状態、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いや本人の思いをくみ取り、さらに職員の意見を聞き介護計画に反映し、個別の援助目標ができるよう計画作成を行っている。	職員間では常に話し合い意見交換し合って介護計画を作成しているが、本人、家族の意見は殆ど出されず同意されることが多い。	入居者や家族から希望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。モニタリングは6ヶ月毎であるが、変化があれば計画の設定期間に係らずサービス担当者会議を開催して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌等に日々の状況を記載したり、職員間で情報伝達を行うことで利用者への適切な支援へ繋げたり、カンファレンス等を利用しプランの見直しを図っている。	介護記録等により気づきや情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や変化に対してその都度職員で話し合いを行い柔軟なサービス提供を行っている。	本人の状況変化に応じて、サービス提供も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元消防団との避難訓練やボランティアの受け入れ、地域の運動会の見学、参加や近隣の散歩・保育園児との交流等楽しみが持てるよう支援を行っている。	地元消防団の協力を得て、避難訓練、地域ボランティアの受け入れ、また、町民運動会の見学等行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は本人・家族に洗濯して頂き、隣接の病院受診の際は介助を行い、主治医への状況報告等を行い良好な関係作りを努めている。	近隣の医院には受診介助も行い、対応も直ぐにできている。また、家族介助の受診時は、情報提供も行っている。	入居者や家族の意向を大切に、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は家族の送迎を基本としているが、緊急時などは職員で対応している。家族送迎時や職員送迎時、どちらも受診結果は適切に説明や報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師に状況報告を行い、指示を仰ぎ受診等に繋げている。	適時、看護職に情報、気づきを伝え相談受診の検討も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を提出し、退院時は家族と共にカンファレンスに同席し施設での今後の対応策に反映している。	入退院時の付き添い、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、重度化を想定し契約時に説明を行い、重度化した場合は、家族やかかりつけ医、職員の意見等を踏まえ話し合いの場を設けお互いが納得できるよう努めます。	家族に現状報告を密にし、グループホームで出来る事、出来ない事の説明をし現状は夜間の医療対応が出来ない為、重度化された場合は病院に入院していただいている。	重度化や終末期に関しては、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。重度化するなど入居者の状態に合わせて家族や主治医と話し合う体制ができており、家族と主治医・事業所は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や内外の研修会への参加することにより利用者の急変時の対応を学んではいるが、現実には不安や緊張が大きく実践力が身に付いていないかと聞かれれば不十分としか言えない。	AED講習や感染症対応の勉強会等、行っているが定期的までには至っておらず、実践力が充分とまでは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回、地元消防団、地域住民の協力を得て実施、地震対応の訓練も実施した。	防災訓練は年2回、地元消防団、地域住民の協力を得て実施、地震対応の訓練も実施した。	年2回、近隣住民や地元消防団、入居者も参加して消防防災訓練を実施している。1回は日中実施し、もう1回は夜勤者当番で夕方から夜間対応の訓練となっている。また、毎月1回係を決めて火の元点検を行い、危険はないかチェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上であることを自覚し声掛けや対応には注意を払うよう努めてはいるが、時に気配りを欠き適切な対応ができていないことがある。	人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めているが、やむを得ず介入しなければならない時もある。	理念に「敬愛・信愛」とあり、入居者の人格を尊重した言葉かけや口調に注意した支援を心がけている。入居者の誇りやプライバシーを損ねる事のない様配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりを多く持つことにより本人の思いを聞き出し、利用者自身で判断できるよう声掛け等心掛けている。	自己決定できるような声掛けの仕方に注意を払っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせることに心掛けているものの、全体を優先した支援になることもある。	睡眠、食事、入浴など出来る限り一人ひとりのペースを大切にしながら過ごしていただいているが、どうしても全体の流れを優先した支援になる事もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の手入れは起床時や入浴時に介助や自身で整え2か月に1回訪問理容を利用。衣類を気にされる方は更衣の際、自分で選んでもらい着換えの介助を行っている。	家族の協力を得てパーマや白髪染めをされている方もあるが、殆どの方は訪問理容を利用されている。服は本人の好みを重視、アドバイスする事もある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	理療者と一緒にテーブルを囲み話しながら食事を頂き、食事前にテーブル拭き・料理の注ぎ分け・配膳の手伝いをお願いしている。	出来られる事はお願ひし、一緒に食事の準備をし食材も食べやすい様に工夫し、職員も一緒にテーブルで食事を楽しんでいる。	入居者の意見や好みを聞き、柔軟に献立が決められている。誕生会や行事食、ホームのウッドデッキでの食事、ホットプレートを使った食事も用意され、食事が楽しみなものになる雰囲気づくりもなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせ食事の形態や食事量を調整し、水分も不足しないように努めている。	個人に合った量や食べやすい状態にして提供し、必要な方には記録をとって水分補給にも努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりできる能力が違い、毎食後口腔ケアの誘導や義歯洗浄の指示、並びに介助を行い、利用者の能力に合わせ対応している。義歯の不具合等が生じた場合は訪問歯科へ調整依頼している。	毎食後、口腔ケアへの誘導、声掛け介助を行い、能力に応じた支援をし、義歯洗浄も定期的に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に応じた能力や動作により提示のトイレ誘導を行い、排泄の一連の動作に支持や声掛けを行い、現状維持ができるよう支援を行っている。	排泄声掛けや誘導を行っているが、思うようにいかず、失敗が増え、パット使用量も増えてしまった。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。時間や態度、様子を見ながらトイレに誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の周期を職員が把握し、便秘の際は乳酸飲料や食物繊維の多い食品の摂取及び歩行運動等により排便を促しているが便秘薬の服用者も多くみられる。	排便チェックを行い、便秘解消に繋がる乳酸菌飲料、食物繊維の提供や運動、便秘薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めている。入浴時間帯等は本人の希望や状況を考慮しながら本人の負担が無いようにしている。	入浴の曜日は決めてあり、昼間の入浴ではあるが順番等、出来るだけ希望に添い、入浴時間は慌てさせず、ゆっくり入ってもらっている。	入浴は週3回が基本であるが、希望があればできる限り支援するように心がけている。入浴は介助職員とゆっくり話す機会と楽しみにしている入居者もいる。清拭や足浴・シャワー浴など、必要に応じた対応もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理を行い、利用者の体調等を考慮し居室でゆっくり休むことができるよう声掛けを行ったり不安時は傍らに付添い安心して休息や安眠ができるよう支援を行っている。	本人の希望に添って、自由に居室で休んだりされている。空調や寝具には気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	報連相ノートに薬の変更や受診時の医師の指示を記載し、状態変化の観察を職員全体で行い次回受診時に報告している。	処方箋やDrからの説明を報連相ノートで連絡し服薬支援状態観察に努め、またDrに変化の報告もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に応じ、向き不向きを考慮し役割分担し、職員との係わりやレクリエーションを通じて、日々の生活に張りや楽しみが持てるよう支援を行っている。	台拭き、洗濯物干し、畳み等の軽作業、体操、レクリエーション、手芸等の楽しみ事、畑仕事や散歩等の気分転換等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に散歩・買物・ドライブ等外出しているが、すべての利用者の希望を満たすことは難しいのが現状である。そのため家族の協力を得ながら外出や外泊を行っている。	一部の方がドライブや買い物に時々、散歩は近くのお地藏様までやホーム周辺をしているが、外出支援が難しい為、出来るだけ天気の良い日には、玄関やウッドデッキで外気浴を提供している。	ホーム敷地は広く、玄関先に椅子を並べて外気浴をしたり、自由な園庭散歩ができています。気候の良い時は近くの地藏様まで散歩したり、季節に応じた花見や行事参加などの外出支援に努めている。経営母体の法人バスを借り、事業所全員参加のドライブも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が不安がる為、少額持参されている利用者もいるが入所の際家族に説明を行い、小遣い程度を預かり小遣い帳を作成し、本人の希望があれば使用できることを伝えている。	安心の為、お金を持っておられる方もありますが、殆どの方が、お金は不所持。家族より小遣いを預かっているため、希望があれば使える事を話しているが、使用の希望は殆どない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用や取り次ぎは行いが手紙のやり取りをされる方は殆どなく公共機関からののがきを手渡し要望があれば内容の説明を行っている。	電話を掛けてほしいと希望はあるが、自分では出ようとされない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の環境作りには花や利用者の作品を飾り音楽を提供しています。また、外庭やプランターに季節の花を植え、畑には野菜を作り施設で調理する料理に使用している。	カーテンの利用で西日を防いだり、エアコンの調整、季節感のある掲示物、テレビの音量等に注意を払っている。	ホーム内は明るく、温もりのある優しい落ち着いた雰囲気であり、天窗からは柔らかい光が差し込んでいる。掃除の時に窓を全開して換気を心がけている。空気清浄器や換気扇を活用し、嫌な臭いや湿気がない様に努めている。花や手芸作品で季節感を取り入れる工夫もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の椅子の設置場所を変えることで利用者が一人になることができたり、気の合った利用者同士くつろげる空間を提供している。	玄関のソファを対面にし誰とでも話せる様にし、マイペースに過ごしたい時は、自席に座られたりされている。また、ウッドデッキや玄関に椅子を並べての外気浴を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自作の飾り物や家族の写真を飾り、自宅で使用していた寝具類や小物類を持参していただき落ち着ける場所作りができるよう支援を行っています。	家族写真やプレゼント、日頃の自分の作品を飾ったり、使い慣れた椅子やタンス、枕等も持ってこられている。	居室は広く、自宅で使い慣れた馴染みの品の持ち込みを支援している。仏壇やタンス・机・椅子等を持参している入居者もいる。室内は写真や手芸品・絵・カレンダーなどが飾られ、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を貼り、トイレには貼り紙を貼り、洗面所は椅子を設け安全に移動できるよう手摺りを設置するなど環境整備を行っている。	手摺りを付け、目線に合ったところにも名札をかけ、トイレの場所を遠くからでも分かり易くし、洗面所に椅子を置いたり出来る限り自分でできるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	2014/4/25	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○		3. たまに
			○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)			1. 大いに増えている
		○	○	2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての家族等が
			○	2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない